

令和1年(2019年)度事業報告書

平成31年1月1日～令和1年12月31日

1. 第29回日米草の根交流サミット大会の開催 <定款上の該当条項:第4条>

開催地 : 兵庫県内各地

開催時期 : 2019年6月24日(月)から7月1日(月) (6泊8日)

参加者数 : アメリカからの参加者 : 85名
大会参加者総数 : 約1,800名
(オープニング及びクロージングの式典、歓迎レセプションとフェアウェル・イベント、ホスト・ファミリー、ボランティア、支援者、12の地域分科会でのプログラム参加者等を含む)

内容 : 「第29回日米草の根交流サミット2019兵庫・姫路大会」を2019年6月24日(月)から7月1日(月)にかけて計8日間、姫路市を中心に兵庫県内において開催した。主催は、CIE、CIE-US、兵庫県及び姫路市。

●兵庫県での受け入れ体制

草の根サミット受け入れにあたり、後援として米国大使館のご協力を頂き、大会実行委員会には神戸日米協会及び各地域分科会開催市の国際課(関係担当課)及び国際交流協会に加わっていただいた。

●オプション・ローカル・ツアー (6月26日)

以下の3つのコースを提供。いずれも好評であった。

- ① 姫路城 (39名参加)
- ② 好古園と姫路城三の丸広場 (18名参加)
- ③ 書写山圓教寺 (11名参加)

●オープニング式典と歓迎レセプション (6月26日夕刻)

オープニング式典は、姫路城を臨む大手前公園に隣接する「イーグレひめじ」内にある多目的ホール「あいめっせホール」にて開催。キラン・S・セティ神戸日米協会相談役、清元姫路市長、河野CIE理事長、岡山姫路市議会議長より挨拶があった。

その後、ペリー提督子孫のマシュー・ペリー氏の短いスピーチの後、中濱家とホイトフィールド家による挨拶と恒例の地球儀の交換が行われた。

また、それぞれの地域分科会のキーパーソンが、アメリカからの参加者を歓迎し、各地域の魅力や予定されているプログラムについての紹介を行った。

式典後は、会場を「清交倶楽部」移し、歓迎レセプションを開催。井戸兵庫県知事、清元姫路市長の挨拶に続いて、鏡割りでは大きな歓声が上がリ、ケリーCIE-US 会長の乾杯の音頭でレセプションが始まった。歓談中には、姫路市内の淳心学院中学高等学校の音楽部によるブラスバンド演奏、姫路伝統の今在家獅子舞保存会による獅子舞が披露され、参加者も音楽に合わせて踊ったり、獅子に頭をかじってもらったりと大変盛り上がった。

最後に岡田姫路市文化国際交流財団副理事長による閉会の挨拶で式典は終了した。

● 地域分科会（6月27日～29日）

大会3日目の6月27日(木)からの3泊4日、大会の中心部分である地域分科会が10市と2つの学校に於いて開催された。地域ごとの特徴あるプログラムが提供され、参加者達はホームステイを通じて、それぞれの分科会で、その地域ならではの文化や自然に触れ、新しい友情を育んだ。

< 地域分科会 受け入れ市 >

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 姫路市 | 2. 神戸市 |
| 3. 西宮市 | 4. 宝塚市 |
| 5. 丹波篠山市 | 6. 丹波市 |
| 7. 姫路市 | 8. 加東市 |
| 9. たつの市 | 10. 朝来市 |
| 11. 宝塚西高等学校 | 12. 兵庫県立大付属中学校 |

上記受け入れ地域のうち、宝塚西高等学校のプログラムには、前回のシアトル大会で奈良県立畝傍高校からの生徒グループを受け入れたマウントバーノン高校からの生徒10名がTOMODACHI イニシアティブの助成を受けて教師2名と参加。同じくシアトル大会で福島から参加の葛尾中学校および川内中学校の生徒を受け入れたタイイー中学校は、TOMODACHI イニシアティブおよび東京倶楽部の助成を得て生徒10名と引率者3名が参加し、兵庫県立大付属中学校で日本の学校生活と文化を学びながら生徒たちと交流を深めた。

● クロージング式典&フェアウェル・パーティー（6月30日）

3泊4日の地域分科会終了後、6月30日(日)、淡路島内のリゾートコンベンション「淡路夢舞台」にアメリカからの参加者、ホスト・ファミリー、ボランティア、その他関係者が集い、クロージング式典が催された。松田神戸日米協会相談役、水口兵庫県産業労働部国際局長、ケリーCIE-US 会長ら

の挨拶の後、各分科会のキーパーソンと参加者が舞台上に上がり、3泊4日の間に行われたプログラムの活動報告を行った。その後、フィラデルフィア日米協会専務理事であるキム・アンドリュース氏が、翌年のフィラデルフィア大会を、ビデオを交えてアピールした。

式典の後は、会場をウェスティンホテル淡路に移し、大宴会場でクロージング・レセプションを開催した。開場後すぐに地元淡路島の伝統芸能「淡路人形浄瑠璃」が披露され巧みな人形さばきに拍手喝采が起こった。高井兵庫県国際交流協会理事長、荒木兵庫県副知事の挨拶後、賑やかなお囃子にあわせ「淡路島踊り」を参加者やホスト・ファミリーたち全員で踊り、楽しみながら最後まで別れを惜しんでいた。

● ポスト・サミット・オプション・プログラム (7月1日～)

サミット終了後、オプションのプログラムとして、次の3つのプログラムを提供した。

- | | |
|-------------------------|------|
| ① 京都ホームステイ 2泊と東京 | 9名参加 |
| ② 金沢&能登ホームステイ (計4泊) と東京 | 6名参加 |
| ③ 東京フリー | 3名参加 |
| ④ 京都フリー | 5名参加 |

2. 第30回日米草の根交流サミット2020フィラデルフィア大会開催準備

令和2年度の第30回日米草の根交流サミット2020兵庫・姫路大会開催について、以下のような準備を進めた。

開催地： フィラデルフィアを中心としたペンシルベニア州南東部各地 (11分科会予定)

開催時期： 2020年10月6日(火) から13日(火)

共催団体： フィラデルフィア日米協会、CIE-US

地域分科会： 以下の10市で分科会を開催することとし、準備を進めた。

- | | |
|-------------|---------------|
| － ソサエティ・ヒル | － オールド・シティ |
| － フェアマウント | － ユニバーシティ・シティ |
| － 南フィラデルフィア | － グレンサイド |
| － チェスナット・ヒル | － ウェスト・チェスター |
| － ランカスター | － リーハイ・バレー |
| － メイン・ライン | |

開会式典及び歓迎レセプション： 10月7日(水)

会場： 「フランクリン科学博物館」

閉会式典及びフェアウェル・パーティー： 10月11日(日)

会場： インディペンデンス・シーポート博物館

宿泊ホテル： 最初の2泊はフィラデルフィアの中心に位置する「フィラデルフィア・マリオット・ダウンタウン」。最後の一泊はデラウェア川岸のペンズ・ランディングに立地する「ヒルトン・フィラデルフィア・アット・ペンズ・ランディング」を予約した。

大会2日目の「オプション・ローカル・ツアー」には、以下の5コースを用意した。

- A：インディペンデンス・リバティ・ウォーキング・ツアー
＋ローゼンバック美術館
- B：美術館（フィラデルフィア美術館またはバーンズコレクション）
＋ローゼンバック美術館
- C：アーミッシュカントリー・ツアー
- D：ニューホープ・ツアー
- E：ペンシルベニア大学キャンパス&考古学人類学博物館
＋ローゼンバック美術館
- F：ローゼンバック美術館 &フリー

大会終了後のポスト・サミット・オプション・プログラムには下記4プログラムを設定した。

1. 万次郎の足跡残るフェアヘイブンホームステイ（2泊）と古都ボストン（1泊）
協力：万次郎・ホイットフィールド・フレンドシップ協会及びボストン日本協会
2. ワシントンDC 半日ツアーとヴァージニアホームステイ（2泊）
協力：Taeko Floyd氏
3. ミシシッピ川の源流ミネソタ州でホームステイ（2泊）
協力：ミネソタ日米協会
4. 大自然に囲まれたコロラド州コロラドスプリングスホームステイ（2泊）
協力：南コロラド日米協会

参加者募集活動：フィラデルフィア大会への参加者募集のため、下記の活動を行った。

1. パンフレットの配布（過去参加者、全米日米協会、各関係者）
2. 日本各地での説明会
3. 助成金申請（5団体）

3. 第31回日米草の根交流サミット2021和歌山大会(仮)開催準備

2021年度の第31回日米草の根交流サミット大会は、下宏和歌山県副知事、県庁国際課の協力を得て、開催が決定し、仁坂吉伸和歌山県知事との面談でも応援頂

いた。大会開催準備を、県庁国際課及び和歌山県日米協会の協力のもと以下の通り行った。

開催時期： 2021年 6 月 22 日～6月 28 日とする

共催団体： 和歌山県、CIE-US

オープニング式典&歓迎レセプション： 和歌山市内

クロージング式典&フェアウェル・パーティー： 田辺市・白浜市付近

宿泊ホテル：和歌山市内(2泊)

南紀白浜 Marriott ホテル(1泊)

地域分科会：県内 10 か所予定

4. 第 32 回以降日米草の根交流サミット大会開催準備

2022 年度の第 32 回日米草の根交流サミット大会の開催候補地として、CIE-US と全米日米協会の助言をもらいつつ、フロリダ、テネシー、オハイオ、ロサンゼルス の各日米協会へアプローチを進めたが、2022 年はまだ決定までに至っていない。しかしながら、コロンバス・ダブリンを拠点にするセントラル・オハイオ日米協会に 2024 年大会の開催を表明していただいた。

2023 年度の日本開催第 33 回日米草の根交流サミット大会の候補地として、札幌、沖縄、長野、新潟、秋田等を視野に入れアプローチを進めたが、決定までに至っていない。

5. 情報の発信

1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。

ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。

草の根通信 98 号(3月)

草の根通信 99 号(6月)

草の根通信 100 号(9月)

草の根通信 101 号(12月)

2) 活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)の発行、準備

・ 2018 年版発行(2019 年 1 月)

・ 2019 年版発行

3) ホームページ、Facebook を通じた発信

大会告知、ニュースレター、大会報告等を掲載した。

以上

公益財団法人ジョン万次郎ホイツフィールド記念国際草の根交流センター

令和1年(2019年)度事業報告書 附属明細書

平成31年1月1日～令和1年12月31日

特になし。

● 参考資料として以下を配付

- ー 2019年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)